

平成三十年度 冬季 鎌倉俳句&ハイク

季節 「冬」

期間 平成三十年十一月一日～平成三十一年一月末  
投句数 二、七九〇句

特選三句

天

日照雨とも秋時雨とも化粧坂

神奈川県横浜市鶴見区

秋山 つとむ

地

盛りなるつらつら椿虚子館

神奈川県横浜市旭区

加瀬 伸子

人

人もかく老いゆくものぞ残る菊

東京都目黒区

尾高 好子

入選句

一般の部

山の日を集めて寺の柿たわわ

東京都武蔵野市

池田 章子

石路咲くや道はここより切通し

東京都武蔵野市

池田 宏治

江ノ電を降りてぶらりと秋の浜

埼玉県さいたま市浦和区

櫛田 範子

海光は寺まで届き冬ざくら

東京都墨田区

大石 努

落葉踏み鎌倉人になりにつけり

神奈川県横浜市青葉区

大皿 多計次

寒風や紫に伸ぶ遠岬

東京都渋谷区

小熊 紀子

実朝の海の上なる雪の富士

東京都目黒区

片桐 啓之

春隣唐門に風やはらかし

宮城県伊具郡丸森町

齋藤 善則

蒼穹へ向ひ一声寒鴉

神奈川県鎌倉市

佐藤 利一

初詣心静かに建長寺

神奈川県川崎市高津区

里中 信

香煙を浴び長谷寺の秋深し

千葉県市原市

鈴木 喬二

笹鳴くは何処や寺苑広かりし

兵庫県宝塚市

田口 晶子

笹ゆれる十日戎の華やぎよ

神奈川県鎌倉市

中島 容子

冬ぬくし立子遺愛の机椅子

神奈川県横浜市戸塚区

原 和三

路地奥に庭師の車年詰まる

神奈川県横浜市保土ヶ谷区

正谷 民夫

野仏の慈悲の日溜り冬の蝶

神奈川県茅ヶ崎市

松坂 真理子

立てかけるサーフボードや春隣

東京都国立市

右田 光代

参道の敷石染めて冬紅葉

神奈川県鎌倉市

森田 厚子

西口はかつて裏駅文化の日

神奈川県川崎市幸区

吉居 珪子

冬紅葉潜りてくぐる二天門

神奈川県横浜市泉区

吉田 克己

(順不同)

入選句

子どもの部

赤とんぼ友の右手に止まりけり

千葉県市川市

築地 巧登

朝刊を取りに出たらば息しろし

神奈川県鎌倉市

阿部 楓

やねの下つららはりつくどけていく

神奈川県鎌倉市

佐藤 美結

ゆきだるまころがしころがしかんせいだ

神奈川県鎌倉市

志賀 静颯

冬の朝海を目指して散歩する

群馬県館林市

鈴木 瑠菜

かまくらや大仏でかく落ち葉ちる

群馬県館林市

村岡 怜

車窓から見える静かな冬の海

神奈川県鎌倉市

池谷 美優

しんしんと源平池に雪つもる

神奈川県鎌倉市

沖田 遥

春一番若宮大路をふきぬける

神奈川県鎌倉市

奥井 穂奈美

天高く忘れられない思いでだ

神奈川県横浜市緑区

小林 俊介

(順不同)